

請願第 1 号

請 願 書

福島第一原発事故によるトリチウム等を含む

ALPS 処理水の海洋放出方針の撤回を求める意見書の提出を求める請願

紹介議員

床井 紀範

伊藤 初美

【件 名】

福島第一原発事故によるトリチウム等を含む

ALPS 処理水の海洋放出方針の撤回を求める意見書の提出を求める請願

【請願の趣旨】

別紙

令和 5 年 2 月 1 0 日

ふじみ野市議会議長

山田 敏夫 様

請願者

原発再稼働に反対する埼玉連絡会

共同代表

白田 真希

【請願の趣旨】

日本政府は、2021年4月13日、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う「トリチウム等を含むALPS処理水」の海洋放出を決定しました。この方針のもと、政府は今年1月13日、「放出開始は今年春から夏ごろを見込む」との方針を決定しました。

しかし、海洋放出については、多くの市民、とりわけ福島県民が不安を抱いており、海洋放出ありきの方針に反対の声をあげています。

政府と東京電力は2015年、福島県漁連に対して「関係者の理解なしには如何なる処分も行わない」と文書で約束していたにも関わらず、それを反故にしたことはあまりに不誠実と言わざるを得ません。全国漁業協同組合連合会の坂本雅信会長は1月13日、「海洋放出に反対であることはいささかも変わらない」との談話を出しています。

また、東京電力の小早川智明社長も「地元の理解がしっかりと進んでいる状況にはない」と述べています。地元の理解が得られない状況を認識しながら海洋放出を強行しようとするということは、福島県民を無視していると言わざるを得ません。

東電や政府は保管場所がないことを理由に挙げています。しかし、大型タンク貯留案やモルタル固化案などの陸上長期保管の代替案が、十分に現実的な案として提案されているにもかかわらず、それについてはほとんど検討されていません。

福島県にとって、汚染水の海洋放出は、復興の大きな妨げとなります。トリチウム汚染水の陸上保管を継続することが、最善の風評被害対策であり、福島第一原発事故からの復興を進めることにつながると考えます。

ALPS処理水は、事故を起こした原子炉から発生する放射能汚染水であり、通常原発から出るトリチウム汚染水とは濃度も量もまったく違います。ALPS処理水の陸上保管を継続し、トリチウム除去の技術開発を進めるべきです。

以上のことから、ALPS処理水の海洋放出方針の撤回を求めます。

東京電力福島第一原発のタンクに貯蔵されているトリチウム等を含むALPS処理水の海洋放出方針を撤回し、福島原発敷地内で陸上保管することを求める意見書をふじみ野市議会より国に提出することを求めます。